

いきいきと表現する子どもの育成

小千谷市立東小千谷小学校

教諭 木嶋 明子

I はじめに

当校では、昨年度の実態から、身に付けた知識や技能をもとに自分の考えを伝え合う力が十分ではないことが分かった。このことから、今年度の研究主題を「いきいきと表現する子どもの育成を目指して～表現力豊かな子どもをはぐくむ指導の在り方～」に設定した。「話す力」「書く力」「聞く力」を育てる指導と授業改善により、思考力や表現力を高め、学力の向上を図ってきた。

II 授業改善の視点

学ぶ意欲を高め、いきいきと表現する子どもを育てるために、算数の学習で以下の手だてを講じた。

1 子どもの思いを課題につなげ、問題を解決しようとする意欲を高める

新しい課題に対して、子どもたちは戸惑いや疑問、困り感をもつ。それは、まだ学習していないことや今までの学習とは違う点があるからである。それが、まさしく子どもたちにとっては解決したい課題である。また、課題を解決する過程で、新たな疑問や困り感が出てくる場合もある。子どもの思いを課題につなげるために、問題や教材の提示の仕方、指導の展開を工夫する。

- (1)まず子どもが自分で問題を解決しようと試みる。
- (2)うまくいかなかったことを全体に説明する。
- (3)うまくいかないことをはっきりとさせ、課題を明確にする。
- (4)全員でうまくいかなかった理由を話し合い、解決の糸口を考える。
- (5)うまくいきそうな方法で自分なりにノートに考えを書く。

2 表現活動を意図的に複数回取り入れ、思考力を高める

子どもたちは、自分の考えを表出する時に、集中力が高まる。1時間の学習の中で、自分の考えをノートに書く、少人数で話し合う、全体の前で発表するなど、表現活動を何度も取り入れ、主体的に考える場面を多くしたい。また、「話す」「書く」「聞く」視点を提示し、その視点を意識して活動させ、より分かりやすく伝え合うことができるようにする。友達のことを聞くことで、自分の考えと比べたり、新しい視点を獲得したりすることができる。話し合いの中で、意欲を高めるとともに、思考力も高める。

III 実践と成果(第5学年「分数」)

1 子どもの思いを課題につなげ、問題を解決しようとする意欲を高めることについて

「 $3/5$ Lと 0.7 Lはどちらが多いか。」という問題を提示した。子どもたちは、既習の分数同士の大きさ比べの問題と違うことに気づき、「分数と小数で表し方が違うから比べづらい。」という困り感を話した。解決できない要因が、その日の課題「分数と小数を比べる方法を考えよう」につながった。既習の学習と比べ、何が違うかを話し合うことで、解決すべき課題が明確になった。

解決場面では、すぐに自力解決を行わず、まず全体でそれぞれが考えた解決方法を紹介し合う場を設けた。「 $3/5$ は分数で 0.7 は小数で、分数と小数で違うから、どちら

かにそろえればできそう。」「今まで使っていた分数ますを使えば比べられると思う。」という意見が出た。小数か分数にそろえる方法と分数ますを用いる方法が提案されたことで、一人では解決方法が見出せない子どもたちも解決の見通しをもつことができ、全員が問題解決に向けて取り組むことができた。

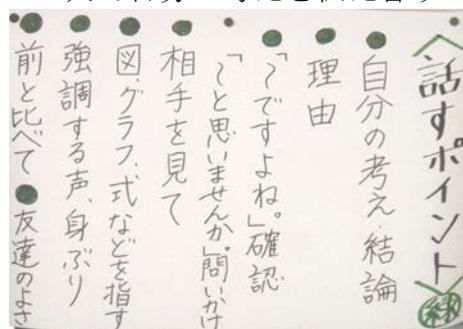
2 表現活動を意図的に複数回取り入れ、思考力を高めることについて

この授業では、「自分の考えを式や図を用いてかく」「解決の方法を少人数で話す」「全体に発表する」「学習の振り返りをする」と、表現活動を繰り返し行った。その都度、教室内に掲示しておいた「話す」「書く」「聞く」視点を、子どもたちは確認しながら活動を進めた。主体的に表現する場を10回程度設けたことで、子どもたちの集中力が高まった。また、活動の視点を意識させることで、詳しく、相手に理解してもらえるように分かりやすく整理して表現するよう心がけていた。

全体での発表で、小数や分数にそろえる方法を用いた子どもは、 $A/B = A \div B$ を用いて計算で答えを導き出した。また、分数ますを用いた子どもは、図で答えを導き出した。分数や小数にそろえて比べると、違いをすぐに求めることができるし、分数ますは視覚的に大きさが比べられるというよさに子どもたちは気付いた。学級全体での話し合いを通して、考える視点を広げ、分数に対する理解を深めた。



2人で自分の考えを伝え合う



教室に掲示し、いつも確認できるようにしている

IV 今後の課題

いきいきと表現する子どもの育成のために、2つの視点から授業改善に取り組んできた。この取組の成果はかなり上がってきたが、今後の課題も見えてきた。

本単元では、分数特有の「1つ分の大きさ」が違くと2つの数が比べにくいことに気付かせること、そして、通分や小数との大きさ比べでは、「1つ分の大きさをそろえる」と比べられることを子どもたちに理解させようと考えた。そこで、単元を通して分数ますを用いて考えさせた。分数ますを用いることで、数直線よりも、量感を伴って捉えることができるために、子どもたちが大きさの違いを理解しやすかった。子どもたちは自分が気付いたことや分かったことを活発に話し合った。ただ、数直線や計算に解決方法を移行したときに、理解に時間がかかる子どもたちにとっては実感を伴うことができなかった。習った計算の方法を使ってはいたが、どうしてその式になるのかを十分理解はできていなかったようだった。今後は、図と式の関係性を捉えさせるためにはどういう手立てが必要かを考える必要がある。

さらに、今後は、子どもたちの表現力をより高めるために「話す」「書く」「聞く」視点について改善が必要である。実態から子どもたちに付けたい力を見極め、活動の視点を再度提示していく。

今後も、子どもたちの状況を把握し、どんな力を付ける必要があるのかを的確に捉え、その都度どんな手立てが有効かを考えて実践していきたい。